



(1500円)

実 用 新 案 登 録 願

昭和 年 月 7日

特許庁長官殿

1.考案の名称

ソウチ ボンブ装費

2.考 案 者

姬路市千代田町840番地 住 所 三菱電機株式会社 姫路製作所内

氏 名

夕田 学

生 (ほか2名)

3. 実用新案登録出願人 郵便番号 100

住所

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

称 (601)三菱電機株式会社

代表者 進 藤 貞 和

4.代 理 人

郵便番号 100

住 所

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号

三菱電機株式会社内

氏 名(6699) 弁理士 蒽 野信

5.添付書類の目録

(1) 明 細 F [X]

1通 1通

 $\begin{pmatrix} 2 \\ 3 \end{pmatrix}$ ĺŪ 委 1E 状

1通

(4) 出願審從請求書

13 12917.

- 考案の名称
  ポンプ装置
- 2 実用新案登録請求の範囲

表面層部分にはガラス布静維を積層し、中心部分には硬度の低い繊維、例えば綿布等を積層して樹脂結合剤にて一体成形したベーン材、上間ペーン材の端面に露出したガラス布徹維を切欠きで切除したベーンを備えたことを特勢とするポンプ装置。

3 考案の詳細な説明

との考案はポンプ装置、特に自動車用排気ガス浄化装置に申いられるペーンポンプの改良に 関するものである。

一般にこの種のポンプは、排気ガス浄化要館のシステム上の要求から、吐出空気中に油分を含まない無給油式が用いられるが、この目的を達成するには摩擦接触部分を極力少なくした構成にする必要がある。このために、この種のベーンポンプのベーンはシリンダと同心位置にあ

4

るアイドル軸上に、ペアリンクを介してシリンダの内壁とは非接触な状態で支持され、かつアイドル軸方向への移動をロータに装着された側面プレートで阻止されながら、ロータ開口部の気密保持用ペーンシール上を摺動しつつ回転する構造となつている。

かかる構造のペーンボンプにおけるペーンには、耐熱性と耐摩料性が良好で、しかもペーン 支持用ペアリングの負荷軽減のために低比重な 材料が要求され、通常、ガラス布繊維を積層し、 樹脂結合剤で成形したペーンが用いられる。

しかし、上記した構造におけるペーンの指動は、ペーンとペーンシール側においては、カラス布轍維の積層方向と平行方向であるが、ペーンと側面プレート側では、カラス布轍維の積層方向と直角方向である。

したがつて、ペーンのとの面には、硬度の高いガラス布観維が露出しており、これが側面プレートと接触して繰り返し摺動した場合、ガラス布制維がワイヤブラシで摺動するがごとく、

側面プレートを摩耗させ、ポンプ寿命を著しく 低下させるといり重大な欠点がある。

本考案は上記欠点を解消するために、表面層部分にはガラス布制維を積層し、中心部分には綿を積層しい、耐摩耗性の良好な繊維、例えば綿布等を積層して、側面で一体成形で一つの表面層ガラス布制部の大き野科のでは、、側面では、、側面で、側面でであるとともに、ペーンがつるとともに、ペーンがつる。

以下本考案を図面に示す実施例について説明する。

(1) は円筒形のハウジングで、吸入室(2) と吐出室(8) とを連通するシリンダ(1a) を有している。(4) はこのハウジング内に偏心して支承され、かつ節口部(4a) を有する円筒状のロータ、(6) は上記ハウジング(1) のエンドカバー、(6) は上記シリンダ(1a) と同心になるように、上記エンドカバー(5) に固定されたアイドル軸、(7) はこのア

T

イドル軸に装着されたペアリング、(8)はこのペ アリングに固着されたベーン取付部材、(9)はこ のペーン取付部材に、リペット伽により固定さ れたペーンで、表面層部分(9a) はガラス布機 維を積層し、中心部分(9b) は硬度が低く、相 手摺動面を摩耗させない、耐摩耗性の良好な轍 継、例えば綿布等を積層して構成され、端面部 分には切欠き(Ac) が設けてある。各々のペー ンは、アイドル軸 16 に対してそれぞれ独立して 回転でき、軸方向には移動自由となつている。 (11) 12 は上記ペーン (9) を正常な位置に保つための 側面プレートで、上記ロータ似に固定されてい れた一対のペーンシール、ほはとのペーンシー ルを、上記ペーン(8) に押圧するためのリーフス プリングで、各々のペーンシールstは、上記べ ーン(8)を狭持し、上記ロータ(4)内部の気密を保 持している。16:は上記ロータ(4)、シリンダ(1a)、 ペーン(9 によつて構成される作動室である。

上記のように構成された無給油式ポンプ装置

の作動を説明すると、図示しない機関よりロータ(4)が駆動されると、ペーン(8)はロータ(4)からペーンシール(4)を介して、ロータ(4)を同方向に回転する。ロータ(4)が回転するので、ロータ(4)が回転するので、ロータ(4)が回転すると、ペーン(8)はペーンシール(3)と摺動してロータ(4)の開口部(4a)を径方向に出入りしながら、シリンダ(1a)内を回転し、吸入室(2)より空気を吸入し、作動室鍼を経て吐出室(3)に圧送して、ポンプ作用を行なり。

とのとき、ペーン(8) は回転につれて、側面プート(II) (12)、およびペーンシール(3) との半径方向の関係位置が移動するため、側面プレート(II) (12)、およびペーンシール(3) と常に指動することになる。

この指動運動において、ペーンシール [3] との 指動部分には、吐出および吸入空気の圧力差に よる押圧力と、リーフスブリング [4] による押圧 力が作用するため、耐摩耗性、耐熱性、耐圧縮 性の良好なガラス布轍維の表面層部分 (9a) を

·

配設し、側面プレート(II (2) との指動部分には、 硬度が高く相手摺動面を摩耗させるガラス布轍 維部分を切欠き (9c) で切除して、硬度が低く 耐摩耗性の良好な繊維、例えば綿布等で構成された中心部分 (9b) を配設してあるため、側面 プレート(II (12) の摩耗を防止できる。

以上のようにこの考案は、表面層部分にはガラス布繊維を積層し、中心部分には優好なが低低な、相手摺動面を摩耗させな積層して、樹脂はからは綿布等を積層して、側面プレートの構造とと、動力するを設けたべっかを用いるととができる。をそれなりことができる。

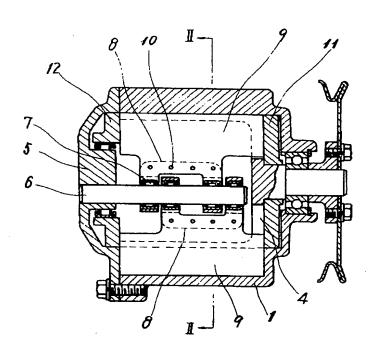
#### 4 図面の簡単な説明

第 1 図は本考案のポンプ装置の実施例を示す 雑断面図、第 2 図は第 1 図のⅡ - Ⅱ断面図、第 8 図は第2 図 IV - IV 断面拡大図である。

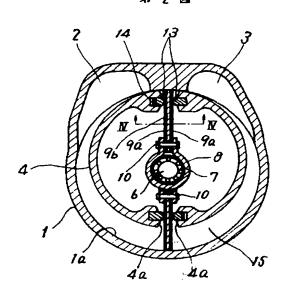
図において(1)はハウジング、(4)はロータ、(6)はエンドカバー、(6)はアイドル軸、(7)はベアリング、(8)はペーン、(11) (2)は側面プレート、(4)はペーンシール、(4)はリーフスプリング、(6)は作動室である。

代理人 萬 野 信 ---

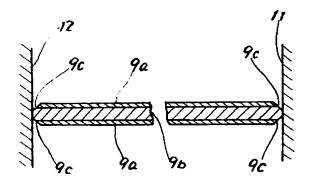
第 / 図



第 2 図



73910岁 代理人 葛野信一



73910 1/2

代理人 葛野信一

## 8. 前記以外の考案者

ト記2名住所 ビメジシ チョ ダチョウ 亜路市千代田町 8 4 0 番地

ミッピケンキ ヒメジセイサクショナイ 三菱電機株式会社姫路製作所内

> イ ケ タ: 井 上 方

# This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

### **BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:
☐ BLACK BORDERS
☐ JMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
FADED TEXT OR DRAWING
☐ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
SKEWED/SLANTED IMAGES
COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
GRAY SCALE DOCUMENTS
LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
Потиер.

### IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.